

## 平成 25 年度 総務文教常任委員会行政視察報告書

平成 25 年 11 月 22 日

1. 日 程 平成 25 年 10 月 28 日(月)～30 日(水)
2. 視察先 福井県・坂井市 人口 94,026 人(平成 25 年 11 月 1 日現在)  
兵庫県・小野市 人口 50,083 人(平成 25 年 10 月末日現在)
3. 視察事項 坂井市 「第二次坂井市情報化計画と  
オープンデータの推進について」  
小野市 「小野市の行政経営について」
4. 視察者 一行 9 名  
委員会 広野豊作 委員長 浅野一明 副委員長  
保坂裕一 委員 樋口博務 委員 安武秀敏 委員  
樋口浩二 委員 佐野正三良 委員  
  
当局 車谷憲繁 企画財政課課長補佐  
随員 吉田和実 議会事務局主査

### 坂井市

#### 【市の概要】

福井県の北部に位置して西は日本海に面し、東は勝山市、北はあわら市および石川県加賀市、南は福井市および永平寺町に接して南北約 17 km、東西約 31 km におよぶ東西に長い行政区域で、06 年 3 月、三国町・丸岡町・春江町・坂井町が合併・市制施行して福井市に次ぐ県内第二位の市となり、坂井平野に広がる穀倉地帯および九頭竜川の恵みを受けて田畑約 36%、山林約 31% の第一次産業をはじめ、海岸線の自然美を生かした東尋坊や日本最古の天守閣を誇る丸岡城など観光産業と並んで近年はテクノ産業にも恵まれ、08 年 3 月の総合計画第一次情報化計画に続き、09 年には環境基本計画を策定、景観条例を制定するなど住みよい環境づくりを推進する近代都市である。

#### 【第二次坂井市情報化計画とオープンデータ推進の概要】(計画期間：2013～2017)

<目的> 行政の持つ情報をオープンデータ(誰もが二次利用できる形式で公開)として市民に提供し、活用交流を介して相互の利便性を高めつつ市民生活の向上を図る。

<理念> 「ひととひと ころとところ まちとまちがつながる iーさかい」

#### <目標>

1. 住民とともに育むまちづくり
2. 多様な都市活動を支えるまちづくり
3. 地域の活力を創造するまちづくり
4. 安全で快適な暮らしを支えるまちづくり
5. 美しい自然と共生するまちづくり
6. 誰もが笑顔で暮らせるまちづくり
7. 生涯を通じて学び育つまちづくり
8. 地域全体でもてなすまちづくり
9. 基本目標を支えるための電子市役所の実現

## <公開メニュー>

- ・観光 観光案内所、自然、歴史、レジャー（平成25年8月28日公開）
- ・医療・福祉 歩こっさ！さかいIT歩数計取込装置設置場所  
おすすめウォーキングマップ（平成25年5月8日公開）
- ・避難施設 避難所（平成25年5月8日公開） 津波避難場所（平成25年8月28日公開）
- ・ハザードマップ 津波ハザードマップ（平成25年5月8日公開）
- ・公共交通 コミュニティバス「ぐるっと坂井」ルート図、バス停位置図  
（平成25年8月28日公開）
- ・公共施設 官公庁、学校、保育所、都市計画情報、市道情報等、順次公開予定
- ・その他・・・個人情報に触れずに公開できるものを、理解ある課から順次公開予定  
※ 現在公開している情報は、位置情報のみである。

## <加工基準>

世界のオープンデータ憲章を基本に進めている国の「電子行政オープンデータ戦略」に倣って進め、二次加工の意思(ライセンス)表示は、「作品の著作権者(クレジット)を表示すること」、「元の作品を改変しないこと」、「営利目的での利用をしないこと」、「元の作品と同じ組み合わせのCCライセンスで公開すること」の4条件を守り、「CC BY」を基本とする。(公開するデータは、コンピュータが読めるファイルでCSV、XML形式である)

## <実績評価>

自治体の基幹系システムに電子国土の地図情報を組み込んで、市民向けのホームページ上でオープンデータ化を進めた結果、業務の効率化と同時に情報の共有化が図れた。

目標の「住民とともに育むまちづくり」部門では、統計コラムの「さかい情報統計館」で平成22年国勢調査の結果を紹介、「安全で快適な暮らしを支えるまちづくり」部門では、西宮市が構築した「被災者支援システム」を導入、9月1日に行った避難訓練の際に現場で入力訓練を実施した。「基本目標を支えるための電子市役所の実現」部門では、5月8日よりオープンデータの公開を始め、現在までに11種類を公開した。

このほか地理情報システム(GIS)の拡充を進め、避難所マップや津波ハザードマップに、市民の新たな加工価値も追加でき、小学校GIS授業の優良事例表彰では毎日新聞社賞を獲得した。

## <今後の課題>

1. 一般的にホームページの情報は見やすさを重視していて二次加工の表示が分かりにくい。使いやすい形にする工夫が必要である。
2. 活用される方が求める情報と、市が提供する情報との差異の解消が必要である。疑問点の把握と調整努力が不可欠である。
3. 情報は常に最新でなければ意味がない。公開データの信頼性確保が必要不可欠となる。
4. アプリ(ソフト)開発など、活用していただく方法についての検討が必要。

## 【所見】

情報通信技術(ICT)は近年著しく発達して社会に深く浸透しており、オープンデータの利活用に取り組む坂井市の積極的な姿勢は理解できる。しかも、世間で情報管理のトラブル問題が毎日のように報道されている現状から、果敢なチャレンジ精神に感銘を覚えてうれしくなる。さらにオープンデータ化を進めるにあたって、国土地理院が無償で提供する地図を採用して加工を重ねる手法は、背景となる地図が常に更新されて信頼性も高く賢明な選択と感心した。また、坂井市の本事業は初期段階ではあるが一定の評価を上げておられ将来の光明を確信した。しかし、一方で情報の格差問題が派生するのも必至で、負の課題を同時に抱えながらの運営は厳しいだろうと拝察する。なお、この事業がいま全国的に注目されてきているのでお互いの切磋琢磨に期待し、過疎問題など地方が抱える課題解決に役立つ「ICT」の誕生を念願する次第である。

## 小野市

### 【市の概要】

面積約 9 4 k m<sup>2</sup>、加古川に育まれた兵庫県播磨平野のほぼ中央に位置し、多彩な自然と温暖な気候に恵まれて古くから播州路の商工業のまちとして栄え、数々の貴重な文化財や遺跡と並んで、播州そろばんおよび家庭刃物のまちとして知られる。特に、奈良の東大寺とゆかりが深く、国宝の浄土寺浄土堂など歴史を感じるまちでもある。また北に中国自動車道、南に山陽自動車道が横断して、大阪・神戸から車で 1 時間圏内に位置する陸上交通の要衝にて地の利が生かされ、充足率 100%を誇る小野工業団地・小野流通等業務団地に 31 社が進出し、医療・食品・電機・金属加工など新しい産業が育って活躍する近代都市である。

### 【小野市の行政経営についての概要】

<目的> 市民生活の向上を目指して民間感覚による市政の導入を図り、職員の意識改革と経営理念の実践を通して活力に満ちた小野市を実現する。

<理念> 市民＝顧客と捉え、より高度でより高品質なサービスをいかに低コストで提供するかを追求し、行政の持てるリーダーシップを発揮する。

<施策> 前例踏襲主義から実力成果主義に移行させ、執行評価につながる平等な機会を通して自己実現・自己責任の価値観が持てる仕組みを作って推進する。

#### 1. 方針管理制度

頂点の市長方針に対し、部長、課長、係長それぞれが具体的方針のマネジメントサイクルを展開し、プロセス・結果・評価・改善を進めながら組織全体として市長方針の達成を目指す。

#### 2. 平成 2 5 年度・市長方針

<重点項目> ①安全・安心な暮らしの確保 ②高度で良好な生活圏の形成  
③子育て・教育環境の充実 ④魅力・活力ある地域づくり

#### 3. 方針・目標設定の実例（ブレイクダウンしながら各立場で設定し、方針体系表に掲げて連携する）

目標：市民課証明書交付の待ち時間平均 2 分を目指す

<実施項目> 証明書交付申請書記載台の使用を徹底する  
・業務動線を考えたシステム機器等の再配置を行う  
・目標の共有化を図り職員の意識を徹底する  
・職員の知識の標準化とレベルアップ

目標：超過勤務時間を対前年度比 3 %削減する(全庁共通目標)

<実施項目> 業務分担の見直しを行う  
・OJT、ジョブローテーションを通じて、多能工な人材を育成する  
・ノー残業デーを徹底する

目標：火災発生件数を過去最少にする

<実施項目> 事前予告なしの立ち入り予防査察を実施する  
・広報で特集記事を組み、地元消防団からの情報提供や啓発を実施する  
・市民の意識改革を促すため、悪質ケースを公表する

目標：参議院議員選挙で開票時間の県下最速を達成する

<実施項目> 前回選挙時の課題を分析し、ゼロベースで新たな体制を構築する  
・開票時の機動性を向上させるため、役割、動線、服装を見直す  
・開票事務従事者間で目標の共有化を図るため、事前説明会を開催する

#### 4. 評価制度と勤勉手当（方針達成度の評価を支給率および人事に連動させる）

方針設定：目標の難易度を自己評価、上司評価(面談実施)して優先度・重要度により評価配分を決める

結果評価：結果の評価、プロセスを含めた5段階で自己評価、上司評価(面談実施)困難度評価・達成度評価を評価点表により点数化(平成17年度導入・対象は全職員)

成績連動：能力評価・・・「知識・技術力」「企画・創造力」「折衝・交渉力」「協調性」などの10項目と30の着眼点を設けて能力の発揮状況を評価  
(評価期間は各年4月から翌年3月の1年間、基準日は1月1日)

業績評価・・・「成し得た業績」を評価

(平成18年度導入・方針達成度評価配分は役職に。地方公務員法第40条に基づき、勤勉手当成績率へ反映。4月昇給(査定昇給)の基礎資料にも)

反映活用：能力発揮の悪い項目に関する集団研修や評価点数の上がらない職員への個別指導など人材育成とともに、人事異動のデータとして活用（昇任や適材適所への異動）

#### 5. 効率運営のハウレンソウ（職員の問題意識の醸成と情報整理能力の向上を狙った小野市流の手法）

報告・連絡・相談の頭文字をタイトルにシート化して実践する仕組みである。

「報・連・相」を要する事項

事件事故、業務上のミスやトラブル、マスコミからの取材、新聞記事等関連情報、主要事業の進捗状況、他の自治体の情報、行政数値データ、視察情報等

「報・連・相」の流れ

所属長からメールで秘書Gへ→秘書Gから市長へ→供覧後コメントも含めて所属長へ返信→副市長、部長職へもメール送信（年間提出数、平成24年度1,819件）

「方・連・総」方向・連携・総括、上司に求められるハウレンソウ

方向性を示し、部下を掌握して連携・ネットワークをとり、総括してまとめる  
(上司の「方・連・総」と部下の「報・連・相」、二束のハウレンソウにより組織力を強化する)

#### 6. 市長への手紙（市民の意見を市政へ反映させるためのツール）

多様広聴：要望苦情等を受付、長期施策・短期施策および対応不可など9つに区分して全てに文書で回答する(匿名にも・昨年までに寄せられた意見は9,800件余)

情報管理：全てにコードNo.を付け、回答までの期間も管理する(市民サービス課)

#### 7. 経営手法導入の検証（全職員対象のアンケート実施、凡例A=あてはまる・B=ややあてはまる）

組織の使命・目標の把握：	A 70. 1%	B 20. 2%
環境変化への対応：	A 33. 3%	B 50. 6%
改革・改善の実施状況：	A 43. 1%	B 40. 7%
行政改革の効果：	A 38. 7%	B 40. 8%
費用対効果の吟味：	A 37. 3%	B 44. 3%
業務の評価改善：	A 43. 5%	B 38. 4%

#### <所見>

処遇と連動させた方針管理制度でオンリーワンのまちづくりを推進する小野市のキャッチフレーズは「破壊と創造」である。行政に経営理念を浸透させて不作為の連鎖を断ち切り、顧客満足志向を徹底的に追求する機運がまちの方々に発揮されている。市長以下職員のリーダーシップで「ここしかない小野らしさ」を幾つも生み出すとともに、バランスのとれた健全財政を維持して市民の共感を得、さらに人口推移の安定維持や合計特殊出生率 1.59(H23年)など、他市の比較においても上位を確保しつつ協働意欲の醸成に余念がない。なお、客観的に制度疲労が懸念されるところだが、「先手管理」の手法をいかんなく発揮され、実を挙げるよう祈念してやまない。